

アマダイ通信NO.47

(Tile fish network letter)

05年芽吹く季節に

知人・友人各位

東京でも四回ほど雪が降り、山にも雪がたっぷり。群馬の水上の奥の宝台樹をメインに、土曜の日帰りスキーを1、2月で7回。2キロほどの中の上クラスのダウンヒル。思い切った前傾姿勢で、冷気を裂いて一気に滑り降りると、気分爽快、やる気も出てきます。毎回付き合ってくれる仲間もいて、4月の谷川岳天神平や、できれば5月の奥只見丸山まで、癌も逃げ出すくらいの元気を出して、去年の記録10回は越えようと思います。

小平用水の土手は勿論、降り積もる深い雪の下でも、春を待つ草花が芽吹いています。爛漫と花咲く季節ももう直ぐ。春を待つ草花のように元気に頑張りましょう！

ウブドの棚田、いつか見た風景だ！

年末はここ数年海外ツアーに出かけているが、一昨年のエジプトに続き昨年はアジアのイスラム大国インドネシア、できれば首都ジャカルタを見たいと、安いパックを探す。だが、爆弾テロなどあったせいか、ジャカルタツアーがみつからない。顧問先の污水处理会社の社長を誘い、親父二人で気が引けるがバリ島ツアーを申し込む。が、11月下旬の連休に娘の住む上海に行ってから申し込んだこともあり、人気のリゾート地の正月休みのツアーは満杯だ。少し早めに休みを取り、23日の休日に機上の人となる。

バリ島はヒンズー教徒の多い島だが、翌24日はデンパサールから回教徒の多いジャワ島にも飛び、ジョクジャカルタに1泊。ジャワ更紗の工場や世界遺産のポロブドールの遺跡を見学したり、ジャワ舞踏を見たり。25日はバリでケチャックダンスを鑑賞。26日は棚田で有名なウブド目指し内陸へ。お葬式の行列あり、着飾った老若男女がバイクに相乗りし集う祭りもある。バリヒンズー教の総本山ベサキ寺院には遠方からも沢山の信者が車を連れ、バスを乗り継ぎお参りする。緑濃い山道を冷房の効いたバスは更に登る。マンゴーやドリアなどの果物を売る屋台が続き、頭に荷を乗せて運ぶ女。両側には緑豊かな水田が連なり、協同で農作業をする農民。用水路が発達し米とトーモロコシの3毛作ができる。花が満開で、水があり、緑濃く、食べ物は豊富。仕事の合間には共に語り、一緒に踊る。信仰心厚い村人の共同体では、時間が揺ったりと流れる。

目指す世界遺産ウブドでは、日本や欧米の観光客で沿道の木彫りや銀細工の村々の土産物屋は大賑わいだ。更に登ったその奥の棚田に人影はまばらだ。綺麗に手入れされている。畦には大きな椰子の木々が天を突き、12月も末というのにくそ暑いことを除けば、いつか見た風景だ。棚田を一陣の風が渡る。帰り道、感傷に浸る☘️を乗せたバスも又、土産物屋の駐車場へと滑り込む。

バリでマキコと言えば私よ！

ジャワ島のガイドは仕事がない時は、屋台の焼鳥屋をする。時給は100円で屋台より割りがいい、屋台は夕方から夜10時までの営業で20万ルピア売り上げ、4万から5万



ルピア（両替屋で千円が8万7千ルピア、1万ルピアが115円なので、約5百円）。鶏4分の1羽1万ルピアと飯千ルピア、お茶1本百ルピアで1食百円ちょっと。因みにマックのハンバーガーは2万ルピア。その日の昼食のホテルのビールが小瓶二本で4万6千ルピアで、屋台の1日の稼ぎと同額。遠くからジョクジャカルタの都心に出て、3時半くらいにバイクや自転車で家路につく建設労働者の日当が3万～4万ルピア。子供が一人いて大学までやりたい、公立学校は授業料は無料だが、私立だと月5万ルピア、中々貯金できない。人気のスズキの四輪駆動車ジムニーを買いたい、バイクから卒業できないという。

バリのガイドは仕事がない時はカミサンと銀細工をする。ガイドは朝から晩までで1日千円、15人以上のツアーで2千ルピアプラス、土産物屋のボーナス5%が月にまとめて貰える。大学出の月給が5千円なので、闘鶏（シャモ）の博打をしなければいい生活ができる。観光業が盛んなバリは仕事があり、中でもホテルのスタッフは人気だ。信号待ちの新聞売りや肉体労働者は失業の多いジャワの人だ。かわいい娘を連れ出せる店があるよ、自分は駄目だけど紹介する人を紹介できます。飲んで気に入った娘を選びどこかホテルに行って一晚1万5千円、と夜の街の案内もしてくれる。自分のホテルに連れ帰れないの？冗談で聞くと、ホテルのスタッフと女の子が知り合いでないと難しいとのこと。

興が乗りガイドのスカルタが自分の会社の女社長も日本人だということ、青山学院出身の同行の社長が、多分同窓の筈ということで、スカルタを介して会っていただく。日本の旅行会社のバリ島ツアーを一手に仕切るラムツアーズ社長、万亀子 ラドム イスカンダール 女史の広大な邸宅へ。60年代半ばに、今は観光バス会社を経営する、早稲田大学留学生の旦那さんと学生結婚して当地へ来たという。日本の観光会社の現地事務所を手伝い、独立して大きくしたというが、打ち続く政治変動、為替などの経済変動、社会変動、最近では爆弾事件と苦労続きだったけど、周りに助けられてここまで来れたのよね。天井から大きなシャンデリアが下がり、豪華な調度品で囲まれた、空調の効いた大広間で、家族に恵まれ、3世代で同居する美しいお祖母さんは、苦労を感じさせない艶やかな顔に笑みを浮かべて嫣然と語る。バリでマキコと言えば私のことよ。

さん悪運が強いですね！

26日ウブドからホテルに戻ると同行の社長に、日本に電話して欲しいとメモ。何か不幸か？それとも取引先の倒産か？電話するとインドネシアで大地震があり、大津波が発生、沢山の死者だという。スマトラ、ジャワ、バリと島が円弧状に連なる。津波が襲っても不思議はない。が、バリでは揺れの一つも感じず、海岸では若者がサーフィンに興じ、海縁のホテルのプールでは客が泳ぎ、バーでカクテルを飲み、デッキで日光浴して本を読む。昨日と同じ今日が流れていく。大腸癌は不運だったが、手術で患部は取り除けたか、元気にリゾートで泳ぎ、本を読めるのは運がいい。津波がバリを襲っても内陸のウブドへ行っていたから、命は助かっていた。プールにつかりカクテルをもらう。

12月の検査入院の結果を2月の検診で詳しく教えてもらう。輪切りの肝臓のCT画像を見ながら、三楽病院の主治医の阿川先生が丁寧に教えてくれる。癌細胞があると黒い影が見えるのですが、大丈夫ですね。この黒いのは隙間です。所々白く見えるのは脂肪です。



脂肪肝ですよ。体調がいいので調子に乗って、暴飲暴食の生活に戻っているからだ。肺の方も問題ありません。白い影は小さい時に自然治癒した結核の痕跡です。年にとって体力がなくなると振り返す時もありますよ。帯状ヘルペスのようにね。週に1回は肝臓を休めてということで、どうにか週一休肝している。バリから帰って皆に悪運が強いと言われたが、強運を持続させるにはそれでは足りないということか。

それでも取敢えず癌の方は大丈夫だ。一昨年3月に大腸がんの手術で上行結腸を盲腸もろとも30センチ切り取り、そろそろ2年。大腸がんの場合なら術後2年で肝臓と肺に癌が転移しなければ、一応他の臓器への転移はないということになり、5年間何もなければ完治だ。2年は一つの区切りだから薬はやめましょうとか、治療に変化があるのかな？不安半分、期待半分で聞くと、半年くらいしたら又、CTを撮りましょう。診察は2ヵ月後で抗がん剤も出しましょうとのこと。ここまで順調に来たのだが、再発の可能性はあるのだ。どこかに潜む癌細胞を考えると医者と切れるのも不安だ。何時までも治療から解放されないのもすっきりしないが、ずっと共存しなければということなのだろう。

バブル？ 欠陥マンションでも220平米で1億円！

11月の連休に娘の婚約者と、1月の連休には両親と上海で会う。1月は新居を探すというので、何軒か付き合う。上海の都心、30階建ての高層マンションが5、6棟ほど、船を浮かべた池のある中庭を囲んで聳え、噴水は20階の高さにまで上がる。一室だけ売れ残っている最上階の床面積220平米（専用部分のみ）の部屋が、日本円で1億円。スケルトン渡して設備と内装工事は買手がするのが中国の仕来りなので、買えば更に数千万円。バブルっぽいし、まだ工事中で引き渡しが大分先なので、同じ敷地の中で170平米の3LDK、家具付き、賃料月2万1千元（1元15円計算で30万円ほど）で、完成済みの23階の部屋を借りることにしたという。

ところが雨が降るとエレベーターが止まり、電気のブレーカーが落ちるといふ。漏電か。屋上や外廊下の防水が不備なのだろう。日本なら手抜き工事、欠陥マンションとして売主、工事業者の責任が厳しく追及されるが、何の問題にもならないという。これまでは市長も住んでいたマンションで何も問題なかったが、これくらいのことは上海では当たり前らしい。集中冷暖房でスイッチを入れると全室暖まる仕組みだが、日当たりもいいのにちっとも暖まらず、電気ストーブを買い込んだという。東京よりずっと緯度が下の上海でも東京より寒い感じで、この冬は何回か雪も降ったので、建物のコンクリートの水分が抜けきらず、逆に気化熱が奪われて寒いのか？ しょっちゅう雨漏りするようでは躯体のコンクリートが急速に劣化、鉄筋や鉄骨も腐食、建物の寿命を短くしないか？

1戸を除き完売のマンションだが、入居済みは1割ほど。家賃から考えると利回りが低いが、それでも借り手がなかなかつかないようだ。転売してキャピタルゲインを手にいれようとの魂胆か？ まだ工事中のものがあることを考えても低過ぎる入居率は需給のアンバランス、思惑買い、投機の過熱による不動産バブル？ それでも次々と古い町並みが壊され、建築ラッシュが続く。2、3年振りに訪れた上海では旧フランス租界、第1回の中国共産党大会が秘密裡に開かれた辺りに、目を瞠る“新天地”もできている。



所得格差？メイドがメイドを使う！

家では下着まで父親に洗わせ、栄養士の母親が作る料理を美味しい、美味しいと食べるだけの娘。家事は？と聞くとメイドがいる。メイドが又、メイドを使うのよという。上海のメイドの月給は外人用が千元、中国人用は6百元。共働きが当たり前だし、差額の400円で他の費用を賄えればメイドがメイドを雇える道理。因みに留学生ビザを切り替え、婚約者の会社を手伝うことになった娘の月給は4千元（15円換算で6万円）現地採用の日系企業の日本人レベルだという。日系企業では日本人の駐在員が一番高給、次が日本で採用された中国人、その次が現地採用の日本人、最後が現地採用の中国人と差がある。

バスの他に鉄道も地下鉄もある上海だが、日本の都会ほど便利ではない。移動はどうするのかと聞くと、自転車は危なくて乗れない。タクシーもよく走っているが、日本のように並んで順番に乗るなどということは考えられず、ラッシュや雨降りの時は無秩序な激しい争奪戦になる。それで運転手つきの車で移動するという。

メイドといい、運転手といい、所得格差の少ない日本では雇うのは難しいが、格差が激しい上海だから可能なのだ。今回は交差点で車が止まると空き缶を持って近づき、物乞いをする老女を上海の各所で見かけた。蘇州では台車に乗せた障害者を引き回す物乞いもいた。聞くと春節（正月）が近くて稼ぎ時だからということだが、沿海と内陸だけでなく、それぞれの内部でも所得格差が益々拡大しているようである。

料理嫌い？上海のマンションは二口コンロ！

土日の夕方になると上海から国際電話がかかる。料理中の娘から料理のプロの母親にアドバイスを求める電話だ。料理の本が欲しいというので秋に持って行ってやったが、活字だけではわからないらしい。多少腕の上がった娘は四口とは行かないまでも三口のガスコンロのマンションが欲しいと言うが、二口が多い。

繁華街の表通りから一步入った上海の街角には、朝から屋台が並び食堂も営業している。屋台の揚げパンや曼頭、麺や丼で朝食を済ます市民も多い。昼も夜も安く食べられる。食堂でも1元や2元もあれば腹一杯食べられる。ツアーでは日本人はお腹を壊すから絶対食べるなどと言われるが、屋台で簡単に済ませるなら1元もかからない。北京で道路工事の土方仕事が1日10元と聞いたが、それでも食べられる。共稼ぎの狭い家の大きな台所で朝晩料理を作るより、外食の方が合理的なのか。街角の屋台や定食屋は大賑わいである。

人件費が安いから安く食べられるのか？安く食べられるから人件費が安いのか？労働力の再生産コストも労働コストも安いので、家事労働も容易に外部化される。メイドや運転手を雇って、或いは屋台で、家事も処理でき、外で食事する割合が高ければガスコンロも簡単なもので済む。まさか女房、子供のパンツを洗わせるために東大に入れた訳ではない！と、今頃お袋も草場の陰で嘆いているだろう！毛沢東の教えに忠実に？今日もベランダで洗濯物を干す我が身を呪いながら？！島国と大陸の違いを想う。ギスギスしても取敢えず自分の生活がもっと良くなればいいのか？仲良くまああの暮らしをするか？これからもそれが続けられるのか？



色々ある人生が面白い！・●●娘の中国日記

最近彼の会社を手伝うようになって、会社経営の難しさが分かってきました。週の殆どが接待で、お客さんとの関係や会社の間人関係（皆中国人だし）など、私にはまだ宿題として残されていたことを痛感する毎日です。でも日本では出会わなかった人、出来事が上海には沢山あって、あのまま日本にいるより良かったと心から思います。何だかんだ言っても日本では家族や昔からの友達に囲まれ、守られて生きてきたんだとしみじみ感じます。上海に来たことだけでなく、彼と出会ったことも大きいのだけれど。彼の立場上、日本のサラリーマンと結婚するのは訳が違うと思います。会社がもっと大きくなればあたしに要求されるものも多くなると思うと、「大丈夫かな？」と不安になるけど、できるようにならなければと腹を括っています。でもあのまま東京で井の中の蛙でいるより、野ざらしの荒野に放り出された方が良かったのではと思います。

プライベートでも「中国人と日本人が付き合う」ことで、単純なことが複雑になることもあります。国境レスなあたしと全く異なる考えの日本人が沢山いる事実、悲しい発言を聞くこともあるし、必要以上に気を使わなければならない場面もあります。でも全てここに来なければわからなかったこと。嫌なことも含め、色んなことが降りかかってくる人生の方が面白みがあると、前向きに考えるようにしています。こちらでの苦労を綴って長くなったけど、今ここにいられて幸せです。涙を流すこともあるけれど、東京で過ごしているよりも前進できる環境に身を置いている気がします。日本企業を相手に頑張っている彼の横で、できるコトを頑張りすぎずにやっていきたいなと思います。

向こう見ずで変わり者の血は争えない娘●●ですが、日本とは違った濃密な家族関係には悩み多そうです。駄目ならやり直せばいい。頑張り過ぎないで欲しい。4月、北京での高見君の出版記念会に二人で参加する、上海でG E Nの資金集めに協力するとのことで、楽しみです。内陸と沿海の架け橋の役割を多少ともしてくれると面白いのですが。

黄土高原 05 年春のワーキングツアー

内陸中国、山西省大同市の黄土高原への植林ツアーです。摩天楼聳える北京や、躍進一途の上海からは想像もできないもう一つの中国、水一滴が血の一滴の、デュープチャイナへのめったに経験できない、旅です。あるがままの中国を知り、そのアキレス腱、貧困と環境、水の問題を体感し、多少ともその解決に貢献できる旅です。

スケジュール・3月27日～4月3日(変更になる可能性もあります)

3月27日・午後出発、夕刻北京着、夜行列車で大同へ

28日・朝、大同着。朝食後、霊丘県へ出発。途中、懸空寺など参観。

29日・霊丘自然植物園へ。園で作業。農家でホームステイ。

31日・新しい苗圃の開所式。カササギの森で作業。

4月01日・雲崗の石窟、万人坑見学。午後環境林センターで作業。

歓送会のあと、夜行列車で北京へ。

02日・朝、北京着。終日北京観光(自由行動可)

03日・朝、北京空港発。



費用 一般 158,000 円 学生 148,000 円

(国際航空運賃、中国滞在費、GEN 年会費を含む。空港施設使用料、航空保険料は含まず)
申込み、問い合わせは 特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク (GEN) まで
〒552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24 住宅情報ビル 5F

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182 E-mail gentree@s4.dion.ne.jp

URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

『ぼくらの村にアンズが実った』中国語版出版記念会

アフリカ人女性として初めてノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリマータイ副環境相は、1977年からグリーンベルト運動を組織、8万人の参加を得て、アフリカ各地に3千万本の木を植えました。GENの高見事務局長は92年から始めて千6百万本。目指せノーベル賞！と悪乗りはしませんが、素晴らしい業績です。『薪と水を！』と始めたマータイさんですが、苗木の生産・植樹には生活改善や民主化、女性の参加が不可欠で、「環境保護こそ平和の礎、環境保護運動を支えるのが民主主義」と言います。GENも木を植え、苗木を育てる活動から、生活改善、住民参加の運動へと幅が広がり、深化しています。

政冷経熱が言われる日中関係。肩怒らせるのは弱さの裏返し。豊かな沿海が投資や所得の再分配で貧しい内陸の面倒を見ないのも、一枚岩の筈の中国共産党の統治能力の不足と見通せば、喧嘩ばかりが能ではない。そっとアキレス腱をさすってやるのも良き隣人、その内、気づいて病院に連れて行く家族も出て来ます。大同ではGENの運動が評価され、メディアで報じられる機会も増えて、平型関の戦いなど、日中戦争では激しい戦闘が行われ、反日感情の強いところですが、大分変わって来たとのこと。反省すべきは反省し、相手の弱いところを手助けする。世代も変わるのですから、過去のことを非難するだけでなく前向きに考えるのがこれからの関係ではないでしょうか？以下は高見君の呼び掛けです。

中国訳が終わり出版社に原稿が回りました。編集者の話では春節明けに印刷所に入り、2月中に出版されるとのこと。遅れはつきものですから、3月と置いていけばいいでしょう。題名は『雁棲塞北』で、副題がつきます。中国版の序文を劉徳有さん(元文化部副部長)が、題字は昨年4月に大同のプロジェクトを回ってくれた、総工会副主席の徐錫澄さんが書いてくれます。徐さんは書家としても著名で、中国書法家協会会員です。

出版記念会は総工会関係の中国職工対外交流中心が乗り出してくれて、4月13日17時より、長安街の交流中心で開かれることになりました。費用のことは心配なくていいそうで、100~150人を招待するといっています。そのうえ、倪志福さんに出席してもらおうという話までありますが、本決まりではありません。倪志福さんは長く総工会の主席をつとめた元老で、中国共産党の政治局員でもありました。北京滞在中の方を中心に、日本人にも参加してもらおうと思います。その頃北京滞在、どうせなら日程をあわせようという方がいらっしやったら、事務所までご連絡をお願いいたします。

●は13日午後北京着、4泊5日の安いパックスツアーを探して出かけ、久しぶりに大同まで足を伸ばし、駆け足で見学して来ようと思っています。一緒に行ける方はご連絡下さい。大同までの交通費、滞在費含めて10万円くらいで済めばと思っています。



129名で83万6千円！・・・留学生支援をありがとう！

今年度の東大留学生支援基金へのカンパは、三鷹クラブ会員名義で97名の方から合計55万2千円、アマダイ通信読者名義で32名の方から28万4千円、都合129名の方から総計83万6千円の多額に達しました。アマダイ通信で先にお願ひしたので、アマダイ通信読者名義にも三鷹クラブの会員の方がおり、10万円の高額の寄付を下さった方もいらっしゃいました。ありがとうございました。

皆さんのお気持ちが、留学生の勉学条件の向上につながり、彼らが日本への愛着を多少とも深め、卒業後、日本で、世界で大いに活躍してくれればと思います。

21世紀の海運・・・三鷹クラブ第59回定例懇談会

今回の講師は(株)日本郵船社長の宮原耕治さん(S40年入寮)です。宮原寮委員長は間違いなく、我らが三鷹寮委員会の掃き溜めの鶴だった、という他の委員にしかられそうだが、実際そう思う。数代前まで委員会は真面目で、学業成績の優秀な者になるというのが当時の三鷹寮のしきたりだったが、2~3代前から、この不文律は狂い始めていた。

丁度、中国の文化大革命とわが国の大学闘争の魁で、寮は久々に賑わい、大学と学問のあり方に対する疑念が学生間で高まっていたこともあり、委員会は夕方から始まり、朝、皆が大学に行く頃に就寝するというスタイルを守っていた。たまに一丸となって行動するときは三鷹のパチンコ屋の開店であり、戦利品を売店のおばちゃんに買い上げてもらうといった、アウトサイダー的生活、脱社会的行動に魅力を感じていた時代だった。

このような委員会が空前絶後の体験をすることになったのは、寮祭の後、現代音楽研究会が模擬店のバーを常設化し、図書室がいつの間にか立派なイルミネーション付、バーテン付の飲み処となった。私は日参し、閉店するときは2~3万円の借金が出来ていた。さて、大学の寮に常設のバーがあるということが、世間の知るところとなり、新聞、週刊誌・・・で大騒ぎとなった。銀行の取り付け騒ぎのように寮生の親が来て、子供を強制退寮させていく、寮生大会は大混乱を続けるといった有様であった。この時、宮原耕治委員長は決然として、大学関係者、マスコミ、寮生の親等を相手に、八面六臂、十一面観音菩薩的対応をした。我々ぐうたら委員は、足かせにならない程度に酒を飲んでいたらような気がする。

さて、21世紀は20世紀の如く右肩上がりではない。食糧、エネルギー、人口、環境など色々な面で20世紀の付けを払わねばならない。21世紀の日本と世界の海運について、宮原委員長がどのような展望を持っているのか是非聞いてみたい(文責:S40年入寮、吉川泰弘)。

本通信で二度先がけて宮原先輩の講演会の告知をしましたが、二度とも都合により延期となりました。申し訳ありませんでした。又、例年3月は、大阪で開催しておりましたが、今年は講師の都合等もあり、5月(31日)に変更しました。ご了承下さい。

日時：平成17年4月7日(木)18時30分~21時、終了後、二次会を予定しています。

会場：学士会館(千代田区神田錦町3-28) : 03-3292-5931)

会費：5000円(会場費、夕食代を含む)

申込先：平賀俊行 Fax 03-5256-0458 Tel 03-5256-0455 (株)国際研修サービス

干場革治 Fax 03-5689-8192 Tel 03-5689-8182 (有)ティエフネットワーク



☛事務所でおでん鍋囲みコンパ

年度の試験も大体終わった2月18日の金曜日、半年ぶりに☛事務所で三鷹寮の若者とコンパ。今回は電磁調理鍋のおでんと、ピザ、寿司がメインで夜7時から、11時まで大いに盛り上がる。特に新兵器で作ったおでんが好評。昔の寮のコンパの雰囲気。個室でアパート化し、連帯感の薄れた寮生ですが10年、20年後、☛事務所で酔っ払って馬鹿したよなと思い出し、時空を超えたつながりを深めてくれればと思います。

総勢17人で狭い☛事務所は酸欠状態？ホスト役の先輩はS43年入寮の井上豊君と、寮ではないが文学部出身で東大闘争後入学の、コンピューター図鑑などのソフト会社、ラティオインターナショナルの井口社長と社員の西村君が、記念にデジカメで同封のチラシのズームアルバムを作る。若者組は加藤かおる（総合文化、分子分光学、博士1年）、亀田亮宙（理1・工学部システム創成学科2年、東大寺学園）、齋藤大輔（理、工学部電気系B・情報通信系、洛南）、寺嶋隆満（文、総合文化M2、開成）、日比野有美（理、薬学部、院進学、愛知・一ノ宮）、三野 功晴（国立国会図書館 調査員）、小川愛美（文4年、松江北）、豊野まなみ（農3年、新潟六日町）、藤田 まどか（理・情報科学、宮崎西）、坂東 樹（農・林学から再入学文11年、岡山白陵）、小野浩治（医 3年、岡山玉島）、永田達哉（文 1年、浜松北）東谷正文（公立政策大学院 修士2年、広島学院）。

生きてる間にもう一度会おう！・・・昭和39年入寮同期会

3月24日(木)午後6時、トップ・オブ・ザ・スクエア宴(千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア ウエストタワー23階 電話 03-3217-0779)で行われます。詳細は、幹事の久保田 康史弁護士(03-3501-2651)まで。会場はパレスホテルの小林節社長(40年入寮)にお願いしました。宛名シールや寮歌集は三鷹クラブ事務局で用意しますので、他の期の皆さんも同期会をしませんか？

石井重信君を偲ぶ会

昨年稲川慧君に続き、三鷹寮同期の石井重信さん(工学部都市工学科)が、1月9日急逝されました。神戸でご親族により荼毘に付されましたが、東京千駄ヶ谷の建築家会館大ホールでご遺族の方々と共に故人の冥福を祈り、思い出を語り合う会が、3月19日(土)16時~19時に催されます。詳細は(株)南條設計室(03-5456-1315)又は、アマダイ事務所まで。

終わりに

今回もバタバタしながらの原稿打ち。ミスプリが多数あると思います。前号も封筒のyearの綴りがyaerになっているとの指摘。自分ではミスに中々気がつきません。悪しからず。

